

(学年) 2 年次、(教科・科目) 国語・現代文 B

一斉学習

(単元) 詩歌 信濃路【短歌】

(本時のねらい)

短歌に詠まれた情景や、込められた作者の心情を読み取り、鑑賞文や感想を書く。また、自他の鑑賞文や感想を共有し、さらに鑑賞を深める。

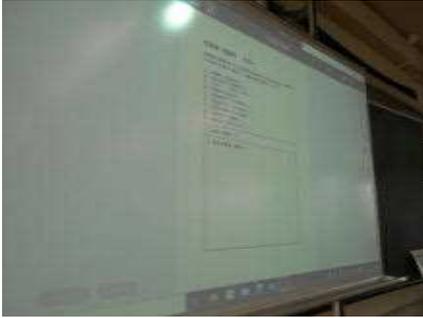
(ICT 活用方法)

学習した短歌の中から 1 首を選び、鑑賞文・感想を授業支援クラウドアプリ上に書き込む。その鑑賞文・感想を、授業支援クラウドアプリを活用して電子黒板に投影する。各自が自分の鑑賞文・感想を発表する。匿名での発表を希望する生徒の鑑賞文・感想は、教員が代わりに読み上げる。

(本時の展開)

時間	学習活動	指導事項	I C T活用方法
導入 5分	・前時の振り返りをし、本時の目標を知る。	・電子黒板を使って各自が発表することを説明する。	・授業支援クラウドアプリを活用してワークシートを電子黒板に投影し、説明する。
展開 40分	・鑑賞文・感想を書く。 ・鑑賞文・感想を発表する。	・発表することを前提に、自分の意見が他の生徒に伝わるよう留意させる。 ・他の生徒が聞き取りやすいように発表することを心がけさせる。	・鑑賞文・感想を授業支援クラウドアプリ上に書き込む。 ・授業支援クラウドアプリを活用して鑑賞文・感想を電子黒板に投影し、発表させる。
まとめ 5分	・本時の学習を振り返り、自己評価を行う。	・内容や発表について、良かった点をクラスで共有し、今後の活動目標を考えさせる。	

(授業の様子)



電子黒板に投影した様子



授業支援クラウドアプリで投影した
ワークシート

(生徒の反応と課題、改善を要する点)

学習した短歌について、筆者の心情を想像したり経験に照らし合わせたりして様々な鑑賞文・感想を書いていた。教員が予想もしていなかったような内容のものも多くあった。また、匿名での公表も可能ということで、素直な感想を書けた生徒も多くいたようだ。匿名でありながらも、自分の文章が電子黒板に写し出されると、恥ずかしそうな、それでいてうれしそうな表情を見せる生徒もいて、人前での発言が苦手な生徒も一歩踏み出す機会となったようだ。このような活動をきっかけに、生徒がより達成感を味わえるような経験を積み重ねさせたい。